



2016年8月

第14回 葉山・初島ヨットレース 安全対策要綱

NPO法人 葉山ヨットクラブ
レース委員長 犬飼 一通
実行委員長 犬飼一通

非整備艇の出場は、個人の責任により判断をお願い致します。

#	項目	確認内容	SelfCheck
1	艇の責任者の責任	<p>艇と乗組員の安全の確保は艇の責任者の避けられない責任であり、艇の責任者は所有艇を最良の状態、かつ十分な耐航性を有するように保持し、荒天の海にも対抗できる体力と適切なトレーニングを積んだ経験十分なクルーを乗り組ませるように万全をつくさねばならない。</p> <p>艇の責任者は船体、スパー、リギン、セール及びすべての備品を確実に整備し、また安全備品が適正に維持格納され、それらの使用法と置き場所をクルーに熟知させておかなければならない。</p> <p>すべての必要備品は下記の条件を備えていなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> a) その備品に対する定められた機能及び性能を有すること b) 定期的にチェックされ、清掃され、整備されていること c) 使用しないときには劣化を最小限に押さえるよう収納されていること d) 即座に使用できる場所にあること e) 使用目的、ヨットの大きさに適合する型式、寸法、容量のものであること 	
2	重量物	<p>可動型の重量備品、例えばバッテリー、ストーブ、ガスボトル、タンク、工具箱、アンカー及びチェーンなどは強固に固定されていなければならない。</p>	
3	コンパニオンウェイ・ハッチ	<p>ハッチ・差し板などが流れ出ないよう、ラニヤードなどで流れ止めがあること。</p>	
4	軟木の木栓	<p>艇体を貫通して開いている穴には、そのサイズに適合する、柔らかい木で出来たテーパ状の木栓を取りつけるか、ごく近くに収納することが望ましい。</p>	
5	パルピット・スタンション・ライフライン	<p>パルピットとスタンションは恒久的に取り付けられていなくてはならない。</p> <p>これらに取り付けるパルピットおよびスタンションはライフラインがなくても機械的に保持できるように装着されなければならない。</p> <p>ライフラインについては次のとおりであることを推奨する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直径3mm以上のワイヤーを用いてピンと張られたライフラインが艇の周囲に装備されていること。 2. ライフラインの高さは概ね次の通りとする。 上方のライフラインの高さはワーキングデッキより600mm以上とし、かつ、下方のライフラインの高さはワーキングデッキより230mm以上とする。 3. 上方のライフラインと下方のライフライン間ならびに下方のライフラインとワーキングデッキ間の垂直距離は各各380mmを超えなくてはならない。 4. 1段のみの場合は、ワーキングデッキより450mm以上の高さでタイトに張られていること。 5. ライフラインの素材は以下のいずれかでなければならない。 ・ステンレスの撚り線 ・二重打ちのダイニーマ・ロープ 	

6	ビルジポンプ	手動のビルジポンプ1台またはラニヤードが付いた2個の十分な容量のある頑丈な作りのバケツを装備すること。ビルジポンプハンドルの流れ止めがあることがのぞましい。	
7	コンパス	コンパスは磁気型のマリタイプで艇電源から独立して作動するもの。	
8	航海灯	航海灯はセールや艇のヒールによって隠されない位置に取付けられていること。また、出航前に、点灯確認をしておくこと。	
9	携帯電話・携帯電話・国際VHF	至急の連絡に対応する。なお、各艇より、初島回航時およびフィニッシュ1時間前の陸上本部へのコールを義務づける。国際VHFの装備がある艇には、それを有効に活用することを推奨し、陸上本部においても葉山港管理事務所と連携し、受信・発信体制を整える。	
10	ライフジャケット	出港から帰着まで全員ライフジャケットを着用すること。□ 膨張式ライフジャケットは、正しく機能するよう、事前に点検を行うこと。□ ホイッスルと夜間反射材の装着、ならびに腿紐または股紐を装備することを推奨する。	
11	セーフティ・ハーネス	夜間および荒天時には着用すること。そのほかレース中でも着用することを推奨する。	
12	ジャックライン	セーフティハーネスをしっかりと取付ける場所として、艇の中心線に対して左舷と右舷のデッキ上に、デッキを貫通するボルトもしくは溶接されたデッキプレートもしくはデッキに取り付けられた強固な金具を使って、常時ジャックラインを取り付けなくてはならない。	
13	消火器	1個以上の消火器を取り出しやすい場所に設置すること。	
14	アンカー(チェーン付)	即座に使用できる状態で、適当な組み合わせのロープとチェーンを備えた1組以上のアンカーを備えること。	
15	フラッシュライト	予備電池及び予備電球を持つ防水型でハイパワーのフラッシュライトかスポットライトを装備すること。	
16	救急マニュアル・救急キット	適切な救急マニュアルを搭載し、救命救急キットを用意すること。	
17	フォグホーン	フォグホーンを装備すること。また、作動することを事前に点検しておくこと。	
18	海図	航海用海図一式(電子式のみは不可)、灯台表および海図作業用具一式を装備すること。□ GPSを利用している場合でも、故障した場合にそなえ、1時間おきに海図上にそのポジションをプロットする、また、タック等で航路を変更した場合も同様とする。□ 作成した航跡図は、フィニッシュ後2時間以内にレースコミティーに提出する。	
19	応急操舵装置	通常使われる操舵装置が、金属で出来ていて破損することが有り得ないと考えられる□ テラーである場合を除いて、舵軸に取付けることのできる非常用テラーを用意しておくこと。	
20	工具・予備部品、シュラウド、切断工具	静索(スタンディングリギン)を艇体から速やかに外すか、切断することができる工具(リギンカッター等)と予備部品を用意しておくべきである。	
21	ライフラフト・救命浮器	ライフラフトまたは救命浮器を搭載することを推奨する。	
22	信号紅炎	信号紅炎を装備すること。有効期限を過ぎてはならない。 全ての信号紅炎を収納箱から出して確認すること。	
23	浮環ヒーピングライン	ライフブイ1個以上を搭載し、ライフブイの1個は、ヘルムスマンの手の届く場所に置いて、直ぐに使用できるようにして置かなければならない。	
24	コックピットナイフ	鞘に収めて安全に保管された強固で鋭いナイフをデッキからもコックピットからも使える位置に装備すること。	
25	個人用位置灯水密ストロボライト	発光持続期間が8時間以上の白色の個人用灯火(点灯でも点滅でも可)を搭載し、日没後は装備または携帯すること。	
26	バッテリー・燃料	航海灯、エンジン始動、そのほかの計器の使用に支障が出ないように、出航前にバッテリーを十分充電するとともに、十分な燃料を搭載すること。	
27	レース海域における危険個所の確認	レース海域には、各所において定置網その他漁業施設、暗礁等の危険個所があるが、□ それらについて事前に十分承知・確認しておくことは各自の責任である。□ レース委員会が把握した最新情報、フィニッシュ時のアプローチ参考図等は、その概略を艇長会議において配布するが、あくまでも参考情報の一部として取り扱うこと。	

その他実行委員会より安全対策上推奨事項

1	シーコックまたはバルブ	喫水線より下部の船底開口部にはすべてシーコックまたはバルブを取付けること。ただし、必要なデッキカバー、スピードメーター、測深計等の開口部には、必要に応じてその穴をふさぐ手段が準備されていればよい	
2	マストステップ	キール上にステップのあるマストの下端は、マストステップまたは付近の構造物に固着されていること。	
3	トイレ	恒久的に取付けられたトイレットまたはそれように使えるパケツを用意すること	
4	携帯電話充電器	水密が確保された携帯電話2台以上および予備電池または艇のバッテリーないしその他の方法で充電できること。	
5	信号焰	信号焰(沿岸セット)を装備すること。有効期限を過ぎてはならない。 すべての信号焰を収納箱から出して確認すること。	
6	ライフブイ(ライン付)	ライフブイを1個以上搭載し、ライフブイの1個は、ヘルムスマンの手の届く場所に置いて、すぐに使用できるようにしておかなければならない。	
7	ハーネス・テザーライン	レース中は着用のこと。 セーフティライン(テザー)は、即時に使用できる状態にしていること。 また、公式日没時以降は装着すること。	
8	マリングレードのレトロリフレクティブ材	ライフブイ、ライフスリング、ライフラクトおよびライフジャケットには、マリングレードのレトロリフレクティブ材(回帰性へ移行反射材)が取付けてあること。 セーフティライン(テザー)は、即時に使用できる状態にしていること。	
9	携帯電話充電器	水密が確保された携帯電話5台以上および予備電池または艇のバッテリーないしその他の方法で充電できること。	